

ホットライン

2011 年

第 6 回日越対話

日時：2011 年 1 月 12-13 日

場所：ホテル日航奈良 百合の間

参加者：

ベトナム側

1. Amb. DUONG Van Quang, President, Diplomatic Academy of Vietnam
2. Mr. NGUYEN Hung Son, Deputy Director General, Institute for Foreign Policy and Strategic Studies, Diplomatic Academy of Vietnam
3. Mr. NGUYEN Nam Duong, Director of Center for Politics and Security Studies, Institute for Foreign Policy and Strategic Studies, Diplomatic Academy of Vietnam
4. Mr. NGUYEN Tien Phong, Assistant Director General, Director of External Cooperation, Diplomatic Academy of Vietnam

日本側

1. 野上 義二 日本国際問題研究所 理事長
2. 阿部 一知 東京電機大学 教授
3. 金田 秀昭 岡崎研究所 理事（元海将）／日本国際問題研究所 客員研究員
4. 川上 高司 拓殖大学 教授
5. 菊池 努 青山学院大学 教授／日本国際問題研究所 客員研究員
6. 増田 雅之 防衛省防衛研究所 研究部主任研究官
7. 小笠原 高雪 山梨学院大学 教授
8. 畑佐 伸英 日本国際問題研究所 研究員

日本国際問題研究所(JIIA)は、ベトナムの研究機関である Diplomatic Academy of Vietnam (DAV) と共催で、第 6 回目となる日越対話を奈良県にて開催した。本会議は 4 つのセッションから構成され、以下のような議論が行われた。

セッション 1 「中国に対する評価」

近年中国は軍事的にも影響力を強めている。海洋権益を巡る中国海軍の動きも最近は顕著であり、昨年 4 月には第 1 列島線を越えた軍事演習が行われた。空軍ではその防衛領域を領空だけでなく、宇宙空間にまで拡大させたオペレーションを展開している。単なる防衛手段から、より攻撃的な戦闘能力の整備にも力を入れ始めている。このような中国における軍事面の変化は、周辺地域や国際社会にとって大きな関心事となっている。

このような事態に対してアメリカは積極的に東アジア地域への関与を深めてきており、東アジアサミット（EAS）へも参画するようになった。ASEAN 諸国も ARF 以外の多国間の枠組みとして ASEAN 国防会議（ADMM）を開催し、それをさらに拡大させる形で ADMM プラスを創設した。中国自身もこのような対外的な変化を認識しており、さらなる外交努力によって近隣諸国との関係改善に取り組もうとしている。

セッション2 「地域安全保障の枠組み」

これまでのアジア地域の安定はアメリカとの同盟関係の構築に支えられてきた側面があるが、近年は ASEAN を中核とする多国間の枠組みによって安全保障の強化が図られている。しかし、このようなアジア地域の安全保障の枠組みは流動的であり、その将来像については未確定な部分が多い。特に中国の台頭とアメリカの対アジア外交の行方が、この地域における安全保障の枠組みに、大きな影響力を及ぼすものと考えられる。近年アメリカは TPP や EAS を始め積極的にアジアへの関与を深めているし、中国も経済力や軍事力の躍進と共にアジア各国との関係構築に力を入れている。また、インドやロシアなどの周辺大国の動向や、北朝鮮情勢、南沙諸島、西沙諸島を含む領土問題に対する当該国の動きにも、注視していく必要がある。

セッション3 「日越二国間関係」

近年、日本とベトナムは次のステップに向けた新たな関係を構築してきており、2006 年 10 月と 2009 年 4 月には戦略的パートナーシップに関する共同声明に合意した。そして、2010 年 10 月、日越両首脳は「アジアにおける平和と繁栄のための戦略的パートナーシップを包括的に推進するための日越共同声明」に署名し、両国の「戦略的パートナーシップ」を、経済、政治、安全保障、文化すべての面にわたって包括的に推進していくことで一致した。東アジアでのパワーバランスが変化しつつある中で、日本とベトナムはこのような多面的な側面について話し合いを継続し、緊密に連携、協力していく必要がある。特に、アメリカの関与も含めた地域システムのあり方、安全保障の強化、経済協力の促進という観点について、両国は共通の課題として取り組んでいくべきである。

セッション4 「日越間の経済関係」

ベトナムは日本から多くの ODA を受け入れており、ベトナム経済の発展における日本の役割は大きいといえる。日越間の投資協定も成立しており、日本からの投資も着実に増えてきている。また日本はベトナムにとって中国、アメリカに次いで第 3 の貿易パートナーとなっている。両国間の経済関係は深化しつつあるが、様々な課題も残されている。ベトナムの投資環境は未熟であり、熟練労働者の輩出、法整備の強化、行政手続きの効率化、インフラの整備などが、さらに海外からの投資を呼び込む上で必要な対策である。また、日本からの ODA の使い方についても両国間で検討して、更なる効率化を図っていくべきである。

以上